
生命に捧げるラブレター

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生命に捧げるラブレター

【Nコード】

N9314J

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

生命の意味を求める詩の数々。

ぬいぐるみの命

薄暗い早朝に亡くした命に照らす光

天使が笑顔で飛ぶのを幻想に見ていた

笑うなよ、人の不幸だと思いやがって

泣くなよ、その幻想を生み出した作者よ

青白い空気に吹き込む溜め息と日の出入り

悪魔は仮面を被り泣いてる様に見える

嘆くなよ、当たり前の終わりに馴れない事に

もう鳴き声が聞こえてこない

あの喧騒が、愛しい遠吠えが

もう尻尾は動かないまま

檻から逃げて、光に閉じこもる

幼い頃から一緒に遊んだ 駆けっこは負けたまま

僕も君も成長していく 君は早く年を取る

聞いてくれ、生き物の種類を無視する想いが

この中に有る事を

白いままの心に今でも確かに有る事を

尻尾を振ってごらんよ 僕は薄暗い朝に泣く

「ワン！」と鳴いてごらんよ 僕を呼ぶ声は朝に無く

何かに奇跡を感じた 生命の奇跡を感じた

出会いと別れなんて当たり前じゃないか

死ぬ事にしろ、生きる事にしろ

この世界の終わり

その瞬間を誰もが密かに待ち侘びている

愛しい鳴き声は何処か遠くへ

消えていったって、何も感じなくて

同じ見た目したぬいぐるみを買って

黄色の月が昇る夜、涙を振り掛けた

命を思っでござらんよ 果ての無い無意味の意味

ちゃんと見てござらんよ 白い息が綺麗に有る

生きてる意味を感じる 生きてる事を確信

いつか死ぬなんて知ってるじゃないか

この世界の終わりなんて毎分毎秒

可能性としてなくは無いのだろう

尻尾を振る事が出来なくても

そこに有る ぬいぐるみの命

鮮やかな殺戮

薄暗い部屋の中

軋むベッドに喘ぐ彼女、愛の育みを

ゲロ臭い夢の中

刻むナイフに叫ぶ彼女、愛の育みを

切り裂く言葉の刃物、心臓には刺したまま

血を流さずに生きて、真実には着かないまま

痩せすぎた少女は素晴らしき人生にピリオドを

長く出したカッターナイフ、祝福の一時を

言葉のナイフ、裏切りのチェーンソー

変わらない日常、殺人は行われてた

泥汚い世界の中

絶望のミネラルウォーター、命の水を

切り裂く言葉の刃物、心臓には刺したまま

血を流さずに生きて、真実には着かないまま

先生、どうして僕を嫌っていたのか、今なら分かる気がするよ

先生、この世界はどうして美しいのか、今更知った気がするよ

薄汚い人の群れ

それに比べれば、この世界は美しいだろ？

痩せすぎた少女は素晴らしき人生にピリオドを

長く出したカッターナイフ、祝福の一時を

言葉のナイフ、裏切りのチェーンソー
変わらない日常、殺人は行われてた

いつだって殺人は行われてた

言葉のナイフで心臓を刺されたまま

戦争と青い空

小さなお辞儀一つ あの子は泣きそうな顔
それ見て僕は逃げ出した
此処は僕だけの防空号

勝ち気な拳目掛け ライフルの引き金を引く
その瞬間 生命の美しさ
此処は人類のゴミ捨て場

血を流す事に馴れたら 死ぬ事を恐れないのか
死を見る事に馴れたら 生きる事を恐れないのか

争いの無い素晴らしい国だ
海に向こうなんか関係無くて
スプリングラー 血が飛び散る様に
人の心に比べれば 綺麗な青い空

犬のぬいぐるみ落ちた 少女に手は無かった
それは過去の真実です
それでも僕は部屋にこもる

この世界の素晴らしさを認めないで
この世界の素晴らしさと向き合って
この世界の素晴らしさを汚して
この世界の素晴らしさに気付いていた

争いの無い素晴らしい国だ
海に向こうなんか関係無くて

スプリンクラー 血が飛び散る様に
人の心に比べれば 綺麗な青い空

戦争の無い時代なら 本当に平和って言えるのか
僕達に知る術はない 本当の平和って知らないから

水色に塗った天井

誰かが小さく呟いた「この世界は腐っている」と
その言葉否定するような術を人類は持ち合わせていない

あの子が視力を失った 良く晴れた水曜日の朝
その姿ずっと眺めて 羨ましい気持ちでいっぱいだ

この汚い世界を見ないで済むのなら……
この醜い姿を知らないで済むのなら……

熱を持つ身体すらもゴミの様に見えて
刃物で刻んで 暗闇に隠れて

その形を微かに確かめては忘れる
綺麗な物を知りたい だから水色に塗った天井

彼女は小さく俯いて「私は一人なの……」と
その言葉を聞いた僕がいる この意味が分かるかい？

この狭い世界を逃げ出す術があるのなら……
この広い世界を知り尽くす事があるなら……

肌を重ねて愛し合ったベッドの上で
口付けの儀式 左胸の痣

その証を静かに撫でては涙する
綺麗なままじゃ知れない 最愛の真実があるから

孤独と二人ぼっち 僕と君 二人ぼっち
ねえ、知らない天井が怖いから ほらね

孤独と二人ぼっち 僕と君 二人ぼっち
ねえ、だから神様はそうしたんだろ？

綺麗に広がる青空、曇り空、茜空
水色に塗った天井 皆が知ってる天井に

熱を持つ身体すらもゴミの様に見えて
刃物で刻んで 暗闇に隠れて

その形を微かに確かめては忘れる
綺麗な物を知りたい だから水色に塗った天井

綺麗なままじゃ知れない愛を
一人じゃない 本当の意味と証を

イラスト・ラブ・ストーリー

自由な思想を広げて ペイント
叶わぬ夢も持ち上げて ペイント
いつか消える僕達を ペイント
幻じゃない命を ペイント

まだまだ足りない
絵の具を片っ端から持つて来い
それでも足りない
仕方ないね、人それぞれの人生だから

この世界に愛の名画を
この世界に愛の名画を
この世界に愛の名画を
それぞれの歴史に刻もう

危険な思案も広げて ストーリー
差別、品格、イジメ ストーリー
みんな平等な世界 ストーリー
始まりと終わり一緒 ストーリー

だらだら生きたい
楽な事を一番に望んでる
だらだら死にたい
怠くなる、先が長い気がする人生だから

この世界に愛の童話を
この世界に愛の童話を

この世界に愛の童話を
小刻みに震える両手で

この世界に愛の物語の原稿を

世界が終わる瞬間も 小鳥が鳴く早朝も
信号機からの警報も この想い亡き毎日も

全て描き続ければいいのに
全て書き続ければいいのに
全て薄くなっていくの
全ては静かに崩れて消えるの？

世界の終わり
残せるモノは片っ端から残したい
世界の終わり
頼りないね、終わりを知ってる人生だもの

この世界に永遠の愛を
この世界に永遠の愛を
この世界に永遠の愛を
そんな気持ちを永遠に……。

この世界に平和の唄を
この世界に平和の唄を
この世界に平和の唄を
待ち侘びる世界の終わりまで
崩れていく世界の終わりまで

命を捧げて花束を

きつと貴方は分かっているのではないでしょうか

私が心の奥に溜めてきた想いを

決して愚かな最後を遂げない様

言葉を風に結んで、空に投げるよ

私は貴方が膝を抱える時には

同じベッドの上、愛を語り合おう

誰か貴方の事を危める時には

盾になり、握った刃物を振りかざそう

何億回と笑ってきても、本当の幸せは知らないで

何万回と泣いてきたら、絶望の意味も知れないで

貴方の事を想っている

捨て切れない想いの水、この身を削るより痛いよ

貴方の事を想っている

失う事を繰り返し、十字架を立てた想いの墓場

ずっと貴方を見ているのでしょう

照れる横顔、長い前髪、痩せ細った身体を

同じこの想いを知らないでいるなら

この命、天に捧げて私は花になろう

何光年と走ってきてても、奇跡的生命は間違え探し

何十年か滞在してても、生命の価値を知らないで

貴方の事を想っている

奇跡の水を飲む、絶望のグラス

この世界に飽きたなら、毒入りスープで共に逝こう
この世界に飽きたなら、私を抱きしめて……共に逝こう

貴方の事を想っている

裏切る程の想い、この脈を切ってみたいよ

貴方の事を想っている

幸福を込める先、十字架を背負う真意を

貴方を想う真意を

天国のラブレター

まだ五歳で字も覚えてた頃の頃

汚い平仮名で書いたあの子への手紙

好きなんて気持ちも知らないはずなのに

何故だろう、あの子に夢中で少し照れていた

この魔法が解ける前に手紙を渡さなきゃ

初めて渡された女の子からの手紙

これがラブレターだって、その時知ったんだ

漢字も沢山知りはじめた小学五年の冬

照れ臭い気持ちで破いて捨ててしまった

言葉を多様し、届けられる事

素晴らしき想いを込めた便箋

今あの頃のように手紙を認める

魔法はとつくの昔に解けてしまったけど

この世界に遺すべき事が有ると

そんな幻想と共に屋上と靴と手紙

言葉を汚して、逝く場所がある事

素晴らしき世界に背を向けるラブレター

何通りとある言葉の中で、あの頃のような想いで
今屋上の上でラブレターを届けるよ

あの子が生きる世界から、僕が逝くべき場所へ
最高のラブレターを 最後のラブレターを

言葉 本当の意味を問う 愛 その価値を
言葉 本当の意味を問う 哀 その価値を

天国へ向けたメッセージを君にも捧げよう
僕がいなくなった後に

天国へ向けたラブレターを君にも捧げよう
僕が好きだった意味を……。

懺悔の唄

生まれて来た事 神様に懺悔 皆様に懺悔
生きて来た事 神様に懺悔 皆様に懺悔
死にたがりな事 神様に懺悔 皆様に懺悔
人間のモノマネ 神様に懺悔 皆様に懺悔

ごめんなさい、じゃあ足りない
謝りきれない私の罪
その重荷をバックに詰めて歩く

渡されたライフルは今も手で握ったまま
震える手で息をする 銃口を頭に向けて

楽してきた事 神様に懺悔 皆様に懺悔
それも誰もが 神様に懺悔 皆様に懺悔

生きる気ない、なら要らない
納得出来ない存在の意味
昨日の死人を後ろに背負って歩く

託された選択肢は数えても一つだけ
生きていく事に変わりはない 死ぬ事が決まってる

この世界が狂っているのか 僕達が狂っているのか
それは何度も証明しただろ？ 僕達が狂っているのだ
醜い姿を好んで曝す事に馴れてしまったのだから
美しい世界に存在すると浮いて見えるのだ、と

頭に向けたライフ

引き金を引く瞬間なんて

誰もが決まって最後らしい

その時が来れば分かるらしい

素晴らしい世界に懺悔 醜い私達に懺悔

素晴らしい世界に懺悔 汚い私達に懺悔

素晴らしい世界に美しく生きる

汚れた私達に懺悔

兵隊と病弱少女

君はいつも忙しそうに笑っている

その怠さも嫌々と言う「好き」も気付いてるよ

君はいつも戦うような表情

この世界と向き合う姿が僕には輝かしいよ

兵隊の様に機敏は君と

倒れてばかりの病弱少女

それが僕等さ……。

君がいつも喘ぐ声も左胸の痣も

僕を騙す為の嘘にしか僕には思えないよ

君がいつも疲れを隠して作る料理

塩とコシヨウを間違えていても僕は言えない

満月の様に笑っていた君と

割れたコップの様に笑う君

それに気付いているよ……。

どうか僕だけのものになつてくれないかな

君の財布に入っていたホテルのレシート

それを見て見ぬ振り 心が痛む 情けないよ……。

どうか僕だけのものになつてくれないかな

君の右胸にも痣が出来ている事

それを避けて 抱きしめるベッドの上 情けないよ……。

兵隊の様に機敏な君と

倒れてばかりの病弱少女
それが僕等だ……。

永遠の愛と懸命な僕は

見逃してばかりの君の傷口

心が痛むよ……。

どうしようもない、姿が情けないよ……。

朽ち果てる世界

無差別殺人事件、目覚まし代わりのテレビの声
最初からそんな運命なんだ。死に方なんてなんでも……。
誘拐殺人事件、憧れの指名手配に夢馳せて
最初から誰か殺す気だった。世界なんてどうでも……。

血が流れるのと同じくテロップとなる
数秒のテレビ出演、命と共にすぐ消える
残酷な世界から、未来の貴方へのメッセージ

世界平和を唱える者達よ
貴方達が一生懸命声を嗔して唱える唄
平和って意味を私は問う
血が染み付いた道 アスファルトを私は行く

幼女レイプ事件、欲望の果て、罪のエクスタシー
その犯人と同じ仕組み。俺も欲望の塊か……。

犯罪の種を植えた身体
誰だってレイプ犯と同じ仕組み
同じ仕組みの身体で彼女を犯す

世界中の人々は「世界平和」と口にする
自衛隊を配備する事がその答えなのだろうか
世界中の人々は「世界平和」と口にする
殺された少女達のテレビ出演が結果なのだろうか

難しい問題でしょう

きつと解ける事はないでしょう

優しい魔法で死のう

世界を見て見ぬ振り、それが全てで……。

世界平和を唱える者達よ

貴方達が散らかす嘘に躓く世界から

平和って意味を私は問う

「何も知らない事こそが本当の平和かも」と。

朽ち果てる世界の中

平和って意味を私は問う

狂い果てる世界の中

平和って意味を私は問う

この世界に生きる、その意味とは

「誰かを愛するってどんな意味？」と、不思議そうに呟く女の子
「それは寂しさを知る為だよ」って、涙目で答えた失恋者

「明日を夢見るってどんな意味？」と、虐められっ子は膝抱えて問う
「それは死ぬ事を嫌がってるから」と、自殺志願者は小さく答えた

全ての出来事が悲劇に結び付くのなら
僕は全ての出来事を否定して生きるだろう

この世界は僕等が思う程綺麗じゃない
そんな事を知ってしまった汚れた僕等だ

「誰かを信じるとは、どんな意味？」と、浮気された彼女は言った
「それは裏切られる事を恐れる事」って世界を信じた少女は答えた

「この世界に生きるってどんな意味？」と、屋上に立つ少女は言った
「それはその意味を知る為じゃないかな」と、僕は答えよう

生命が辿り着ける場所は一つだと決まっていなくても
生命が辿る旅路の種類は一つだと決まっていらない

生きる必要とは
生きる必要を知る為だと

この世界は僕等が思う程綺麗じゃない
そんな事を考えられる程優しいだろう
この世界に生きるとは、どんな意味だろう

そんな事を考えられる程、僕等は生きている

この世界に生きている

生命に捧げるラブレター

今日、全てが始まった未熟児の赤ちゃん

三ヶ月後の終わりを知ったら、何を考えただろう

今日「死にたい」と言っていた細身な少女

数週間後の終わりが分かっていたら、何を言ったのだろうか

全てが終わる事

それが何よりも怖い事

でも、息が続く事

それも何よりも怖い事

昨日、全てを終わらせた虐められっ子の中学生

二十四時間後が見えたなら、飛び降りなかっただろうか

昨日、レイプされ棄てられた可愛い女子高生

数分の誤差があれば、今頃笑っていたのだろうか

全てが終わる事

それが何よりも怖い事

でも、時が進む事

それに期待を込める想い

静かな日々を歩き続ける

真つ暗な道に行く 世界の終わりを探して

静かな日々を歩き続ける

真つ白な未来へと 世界の終わりを求めて

全てが終わる事

それが何よりも怖い事
息を続ける意味がある
それが何よりも怖い事

先が見えないと怖いのだ

だから暗闇と共に未来は嫌

最後を迎える事 それが無よりも大切な事
生命としての在るべき姿

世界の終わりへ向かう者から

生命に捧げるラブレター

世界の終わりへ消えた者から

生命に捧げるラブレター

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9314j/>

生命に捧げるラブレター

2010年10月25日08時03分発行